

| 令和 6 年度 第 1 回魚沼市総合教育会議 会議録 |                                           |        |          |      |
|----------------------------|-------------------------------------------|--------|----------|------|
| 1 日 時                      | 令和 6 年 9 月 1 0 日（火） 1 5 : 0 0 ~ 1 6 : 3 0 |        |          |      |
| 2 会 場                      | 魚沼市役所 本庁舎 3 0 2 会議室                       |        |          |      |
| 3 出席者<br>(敬称略)             | 魚沼市総合教育会議                                 |        |          |      |
|                            | 役 職                                       | 氏 名    | 出 欠      |      |
|                            | 市 長                                       | 内田 幹夫  | ○        |      |
|                            | 教育長                                       | 樋口 健一  | ○        |      |
|                            | 教育長職務代理者                                  | 星 麻衣   | ○        |      |
|                            | 教育委員                                      | 八木 由美子 | ○        |      |
|                            | 〃                                         | 浅井 誠哉  | ○        |      |
|                            | 〃                                         | 桑原 哲哉  | ○        |      |
|                            | 魚沼市 事務局長                                  | 大塚宜男   | 学校教育課長   | 岡部 忍 |
|                            | 生涯学習課長                                    | 青柳洋介   | 子ども課長    | 関 祐樹 |
| 4 議事内容                     | 管理指導主事                                    | 五十嵐哲也  | 管理指導主事   | 米山 智 |
|                            | 統括指導主事                                    | 江田 浩   | 教育センター次長 | 須佐光行 |
|                            | 学校教育課庶務係長                                 | 井口啓一   |          |      |
|                            | 事務局 秘書広報課長                                | 阿達 文子  | 広報広聴係長   | 広瀬 大 |
|                            |                                           |        |          |      |
| 5 配布資料                     | 次第及び関係資料                                  |        |          |      |

## 【議事内容（要約）】

### 1 開会

### 2 市長あいさつ

9月に入り夏休みが終わった子どもたちも元気に登校している。魚沼北中ではゴーヤのグリーンカーテンを頑張っているようだし、小出中は小出まつりにおいて空き店舗でチャリティー活動をしたり民謡流しにも参加したりしたようだ。それが市報9月号の表紙にもなるととても良かった。

今回は「学区再編」や「保育園の民営化」について、さらに前々年は「部活の地域移行」についてご議論いただいた。保育園については、サウンディング調査から民間移譲は難しいだろうということになった。また、少子高齢化や施設の老朽化などを総合的に判断して、個

別再編方針を3月に策定した。年度別に閉鎖等を定めており、ひがし保育園を令和6年度末で閉園としている。

学区再編については、「小中学校の教育環境のあり方検討委員会」を立ち上げて、子どもたちに望ましい学校環境を検討しているところである。

今回は「今後の家庭教育の在り方」について意見をいただくことになっている。私は人生の中で一番大事なのは家庭、家族だと思っている。人口減少など家族を取り巻く環境が変わってきており、世の中には情報があふれていて不安になることがあるだろう。それらをうまく整理して、子どもたちが将来こういう家庭を持ちたいと思えるような家庭教育が必要であると思っている。子どもたちの健やかな成長を願っているので、今日は活発な議論をよろしくお願いしたい。

### 3 議事

#### (1) 今後の家庭教育の在り方について

学校教育課長より「家庭教育支援の推進」について、資料に基づき説明

(市長)

ただいまの説明を受けて、それぞれの感想、質問をお聞かせ願いたい。

(教育長)

親も子育てしながら親になるものだと思うし、子育ては誰しも初めてのことはあるが、核家族化などで親自体も変わってきてしまっているのも、家庭教育支援体制等の構築が求められている。たとえば、子どもたちの中ではグループLINEで仲間外れにされる等の問題が起こることがあるが、今は、更に親の怒りの声が大きくなっている。もちろん学校では子どもたちにヒアリングはするが、親がそれでは済まないことが多い。そういうことが問題となってきた。親への支援や学びの場を提供することが大切になってきていると感じている。

また、生まれてから就学までの期間は、ぱびぶや保健師の戸別訪問など相談窓口や細やかな支援体制など整っているが、就学後の相談窓口や支援体制が少ないと感じている。

(八木委員)

確かに就学前は保育士さんなどに気軽に相談することができたが、就学後は先生に相談しづらいことがあった。教頭先生に相談したこともある。子育てに関する第三者的な相談できる場所が欲しかったと感じている。

(浅井委員)

親の子への関わり方も様々なケースがある。先生に頼ることも必要だが、必要とされる支援の仕組みが必要だと感じている。

(星教育長職務代理者)

ずっと家庭教育は大事だと考えてきた。家庭教育支援者養成講座にも何回も参加してい

る。家庭の中で社会的なマナーや自立心や自尊心などを育てることは非常に大切だが、親が自信をもって教えるということは非常に難しい。人とのやり取りではなく、ネットの情報のみに頼ることも多く、悪い方向へ思い込むこともあると考える。親も人とのコミュニケーションが必要で、それが自分自身の安心感や自信にもなる。そんな仕組みがあったらよいと思っていた。

(桑原委員)

家庭教育支援の目的を考えたとき、その子の将来をできるだけ幸せな方向に導いてあげたいと思う。なりたい仕事に就くための最低限の学力や知識や人とのコミュニケーション能力を身に付けて欲しいというのが大切だと思う。また、何か問題が起きた時に、学校と親で話し合うことになるが、そこに家庭教育支援チームが関わって、的確なアドバイスが受けられるような状態になると学校不信もなくなると思う。

(市長)

家庭環境は様々である。親がネットにあふれる情報に振り回されて適切な判断ができず安定しないと子どもも落ち着かない。そういうところへの支援が有効なのではないか。親自身が笑顔で自分らしく楽しく子育てできていると、自然と子どもも親に愛されていると感じることができると思う。そうすると子どもも学校で楽しく生活できる。そういうものが本来の形だと思う。確かに支援が必要な家庭もあると思うが、親も子もたくさんの人と関わって学ぶことができるような仕組みを作り、地域で家庭、子どもを育てるという考え方が大事なのではないか。

(教育長)

自宅に遊びに来た子を叱るようなことは昔はあったが、今ではなかなかない状況である。だからと言って支援チームを作ればよいということでもない。地域が子どもとでできるだけ多くの人と関わって、ダメなところは叱ってもらいたいし、地域みんなで育てようということも大切であると思う。

家庭教育は、学校でも PTA 活動の中でもできることだと思うし、社会教育サイドの母親教育・父親教育なども大切であるし、やはり相談体制の構築も大切である。多面的な取り組みを推進していくことが重要だと思う。

(八木委員)

子どもが中学生の頃の反抗期には PTA 活動の際に先生に助けられた。先生の「そういう子ども、卒業して大人になったら大丈夫だよ」と言ってくれたことで安心できた。高校受験も親身に関わってくれた。すごく安心感を得られた。

(星教育長職務代理者)

私の幼少期の経験からも地域の人に教えてもらうこと、育ててもらうということはとても大事だと思う。

(市長)

家族や子どもたちが、地域の人たちのそのようなかわりを持つには、どうしたら良いの

か。

(教育長)

皆さんの話を聞いていると、子どもよりも親がどう学ぶかが問題ではないかを感じる。親同士のかかわりが薄い。子どもの前で先生の悪口を言わない、というのは常識だと思うが、それを常識だと思っていない親がたくさんいると感じている。

(市長)

良いこと悪いことが分からない子どもがいる。先生は、はっきりとダメなことはダメと愛情をもって教えてやるべきだと思う。

(浅井委員)

子どもと先生が向き合って、そういう関係ができれば良い。

(教育長)

どんな教育活動も子どもと先生の信頼関係が無ければ、どんな指導をしても子どもには届かない。先生もあまり萎縮せずにダメならダメと言える関係を構築することが大切だと思う。

家庭教育の話に戻るが、やはり最近は親が人との関わりが少なくなっていると感じている。ネットなどの情報過多の中、考え方が危険な方向にいかないように、親同士の生の関りをどう作っていくのかというのも家庭支援という意味でも大事なかなと思っている。

子どもの教育の中ではよく「人は人の中で人になっていく」と言われている。トラブルも含めて人間関係が大切だと言っている。親も同様に、親は親の中で親になってもらいたいので、親同士のつながりをどう作るかという視点は大事だと思う。

(桑原委員)

コロナ禍で経験したことであるが、メールや ZOOM だけの関わりであった人とはなかなか親しくなれないが、対面で一度でも会ったことある人は信頼できる。やはり人と人が交わる機会を作っていくのが大事だと思う。

また、子どものストレスをなくすには家庭円満であることが大事だと思う。何かあっても戻ってくる居場所があれば子どもは荒れない。結婚したいなあ、と思う子どもも増えると思う。やはり、親同士の交流の場を作れば良いと思う。

(星教育長職務代理者)

親同士が繋がることは大事だと思っているが、そのような場に出てきてほしい人は出てこないのではなかなか難しい。

(市長)

子どもが成長する中で、覚えなくてはならないことがある。各年代によって様々な課題や問題が出てくるが、そこを親や周りの人がしっかり見抜いて教えないとだめだと思っている。

(2) その他

(市長)

教育長と夏休みと冬休みの体制は今のままでいいのか、という相談を行った。予算をかけて学校には全ての学級に冷房を整備したが、7月25日から8月いっぱいまでは夏休みになってしまう。しかしながら、近年の夏は猛暑続きであるために子どもたちは外で遊ぶこともできないため、結局、仕事等で親不在の自宅の冷房の効いた部屋で過ごしている。これはいいかがなものか。全国に横倣えではなく、雪が降る魚沼ならではの教育を施すということがあってもいいのではないかと考えている。

(教育長)

法的に問題ない。地域の祭、教員の研修が夏に集中していることなどの課題をクリアすれば実現できると考えている。

(市長)

絶対こうしたいことではないが、先生方からも一度考えてもらえたらと思っている。